

Aki City , Hatayama

Design of Huruhon-no-Sato , Creation Center

Department of Infrastructure Systems Engineering

1095526

Ryosuke Murai

Abstract

Recently, In East KOCHI to be losing population. Then, Now we can see a lot of abandoned house , vacant ground, closed school and disused school. HATAYAMA area within 40-minute car ride from AKI city and HATAYAMA has also agonized for depopulation.

The Master's design to improve the environment as library of now-defunct HATAYAMA elementary school and junior high school and design of new space for community . Attract someons in HATAYAMA by doing this , the aim of this as a means of revitalizing the area.

So, the direction of the design is decided as follows;

1. Institution a structure as the base of Huruhon-no-sato project.
2. Host In diverse wayshow to make things enjoyable and exciting of presentation copy.
3. Open space where feel the nature of HATAYAMA.
4. Library room space where we can enjoy whithout reading a book.

As result I design four rooms.

[HANASAKA library]

Transaction space. Engage in animated conversation space. Hanasaka library is around a big round table and will have aleisurely hours in HATAYAMA.

[HANIKAMU library]

Hanasaka library is labyrinth of library. Secretly read a book which have much time for myself.

[MANABI library]

The library-wide reading room. Enjoyable a book of open a book on the desk. This library can also serve as show space.

[GORORI library]

Just see it is pleasant picture books battery of library. associated That with "YOMI-KIKASE" bring event space.

Keyword: Presentation copy library , Depopulation area , Design of library's furniture , Design for execution

安芸市・畑山 古本の里のデザイン ー畑山の創作資料館ー

社会システムコース工学コース

1095526 村井 亮介

目的・構成

近年、高知県東部は定住人口の減少により過疎地域が増え、空き家や空き地、休校・廃校となった校舎が多く見られるようになってきた。安芸市中心街から安芸川に沿って、北に約40分ほど車を走らされた所にある畑山地区でも同様に過疎化が進んでいる。

こうした過疎地域を活性化させていくためには、交流人口を増やし、新しいコミュニティーの場をつくるが必要になっている。

そこで、畑山夢楽実行委員会（はたやまむらじっこういいんかい）が発足された。畑山夢楽実行委員会は畑山村の住民と安芸市役所、高知県庁、まちづくりの専門家によって構成されており、使用されなくなった空き家を再活用し、古本の図書館およびアトリエなどの機能をもつ「古本の里」をつくることによって、地域に人を呼び込み、地域の活性化をはかることを目的としている。

本修士設計では、畑山地区に残る旧畑山小中学校の1階を古本の里として整備することで畑山に新しいコミュニティーの場をつくる。そうすることで畑山地区に人を呼び込み、地域の活性化を図ることを目的としている。

本修士設計は8つの章から構成されている。

1章では本プロジェクトのコンセプト、目的、手段など概要を示す。2章では旧畑山小中学校・校舎の改修に関する概要を示す。3章では旧畑山小中学校・校舎改修の提案を始めの案から最終案まで示す。4章では、本修士設計で制作した家具に関する図面や考察、完成写真を示す。5章では古本の里の完成までの家具の制作風景やミーティング風景などの活動写真を示す。6章では完成した古本の里を写真をもとに説明する。7章では制作したものについて総括し、過疎化地域における施設のあり方、実施設計を終えて感じたことをまとめた。

畑山地区の概要

畑山は、安芸市中心街から安芸川に沿って、北に約 40 分ほど車を走らせた所にある集落。安芸川の源流域である五位ヶ森の麓の山里で、緑に囲まれ、地区内に流れる川には鮎やアメゴが棲息している。中心部には温泉宿泊施設「畑山温泉」があり、地元住民の憩いの場となっている。また、ゆず栽培が盛んなほか、高知県の特産品である土佐地鶏と一代雑種との交配の鶏「土佐ジロー」を、独自の方法で飼育している。

人口 100 人足らず足らず小さな地区で、過疎化の進行により空き家、空き地が増え、畑山小・中学校も廃校となった。しかし、地元住民らによる「はたやま夢楽自然学校」を開催するなど、活性化活性化に向けてやる気と行動力は十分にある地域である。

古本の里の概要

高知県安芸市の畑山地区は山間部に田畑が点在する豊かな地域であるが、近年は著しい過疎化の進行により、空き家や廃校が目立ち始めている。高知県下にはこうした地域が多く点在するため、そうした過疎化地域を活性化をはじめ、行政や NPO 等の連携により、交流人口及び定住人口の拡大を図るモデルを構築する試みが行なわれている。

畑山地区では廃校となった校舎などを活用する取り組みとして、読まれなくなった書籍等を集め、校舎を図書館や芸術を志す者の創作活動の場（アトリエ）」として再生し、来訪者との交流を図ることが提案された。

また、畑山地区の散策コースを確定し、地区全体を「古本の里」として人を呼び込む。さらに、コンニャクづくりやそば打ちなどの田舎体験や農村体験等も実施し、地元住民と来訪者との交流を図ることも行なわれている。

全体の計画方針

畑山夢楽実行委員会より高知工科大学・社会システム工学科 吉田研究室と大谷研究室が依頼を受け、畑山地区に残る旧畑山小中学校の 1 階を古本の里として整備することとなった。

一連の整備計画について、本修士設計とする。

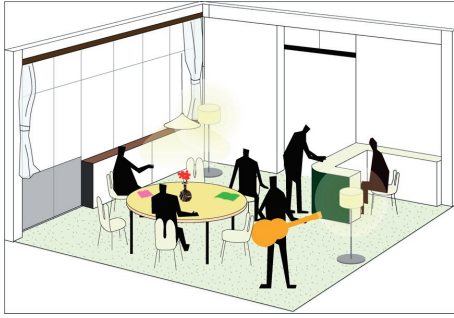
整備方針として以下の 4 つのを行なった。

1. 古本の里プロジェクトの拠点となる施設。
2. 集めた寄贈本の様々な楽しみ方を提供。
3. 畑山の自然を感じれる図書スペース。
4. ゆっくりのんびりできる。

主要な4部屋の方針

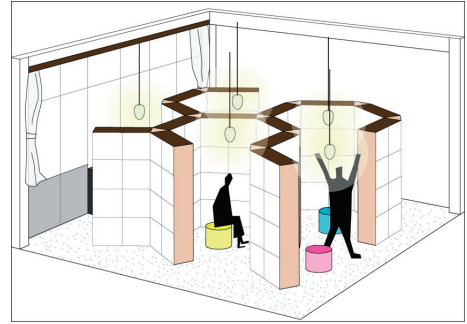
「はなさか図書室」

交流スペース。話に花を咲かせる図書室。大きな丸いテーブルを囲んで畑山のゆっくりした時間を過ごせる。



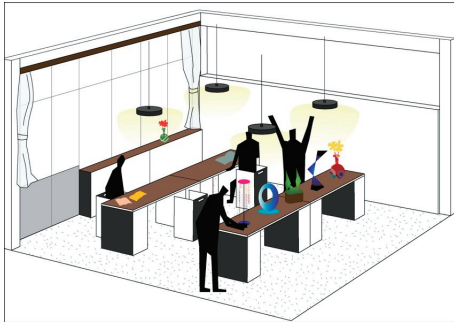
「はにかむ図書室」

1人でこっそり、ゆっくりと本を読む事ができる図書室。迷路の様な空間が自分にあった本を探す楽しみを増加させる。



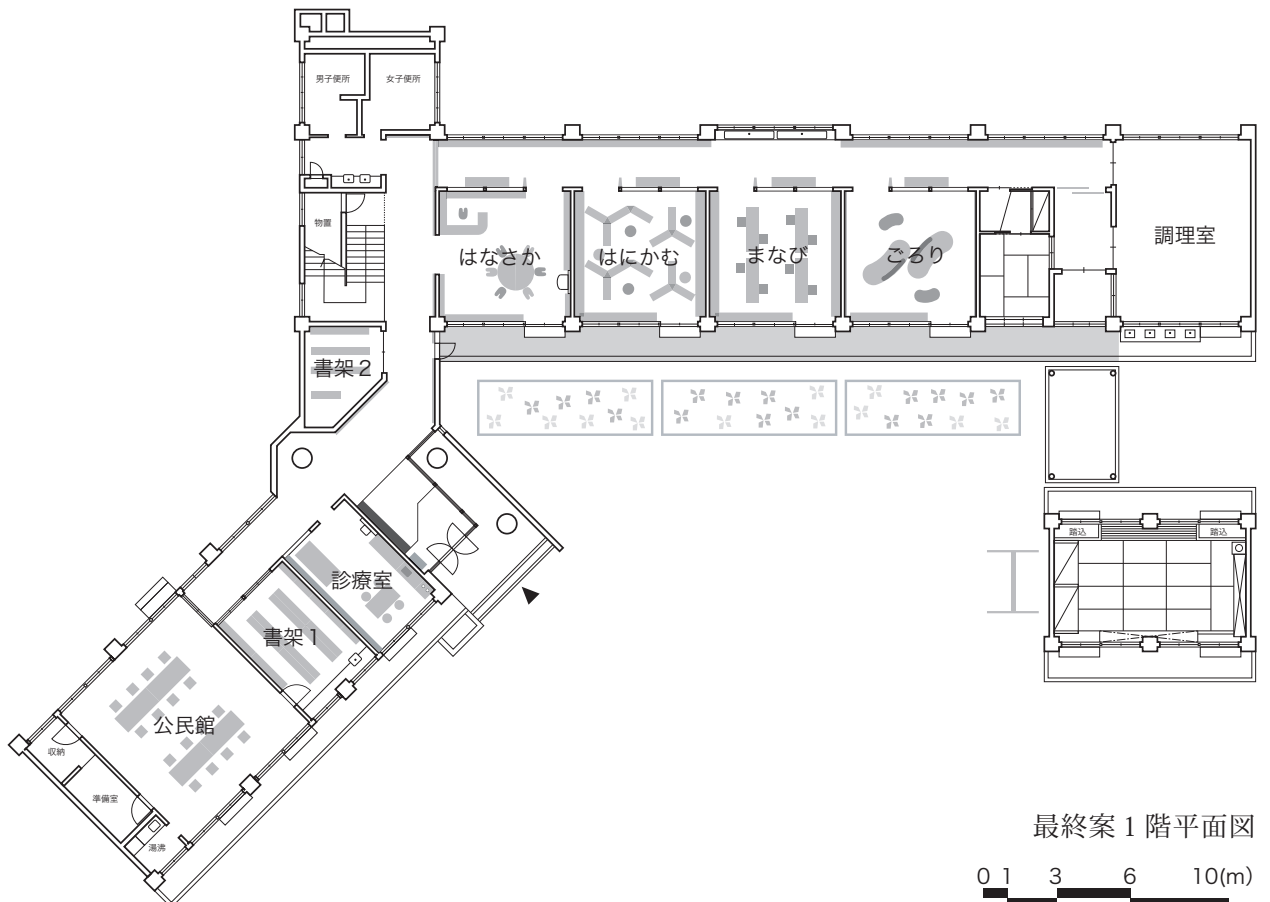
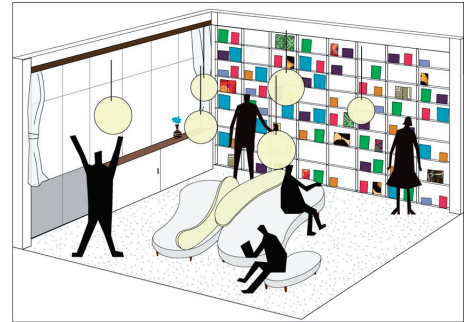
「まなび図書室」

閲覧室。本を机に広げて本を楽しむ事が出来る。机を使って展示スペースとしても活用される。



「ごろり図書室」

見るだけでも楽しい絵本が表紙をむけてずらりと並ぶ図書室。本の読み聞かせなどのイベントにも使われる。

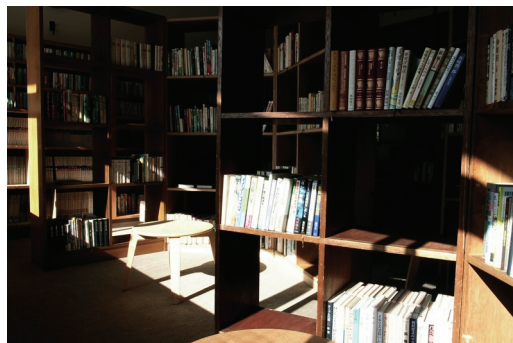


完成した古本の里

○主要な4つの図書室



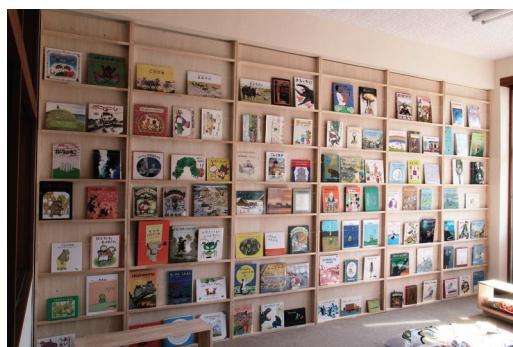
はなさか図書室



はにかむ図書室



まなび図書室



ごろり図書室

○その他



ろうか



玄関

提案の総括

今回、古本の里を提案するにあたり、以下の4点をコンセプトにデザインを行った。

1. 古本の里プロジェクトの拠点となる施設とする。
2. 集めた寄贈本の様々な楽しみ方を提供する。
3. 畑山の自然を感じれる開放的な図書スペースを設ける。
4. 本を読まなくても楽しめる、くつろげる空間づくり。

各コンセプトに対し、以下のように提案を行なうことで、コンセプトを実現することができたと考える。

1. に関しては、全国から集まった2万冊に及ぶ寄贈本を1カ所にまとめ、利用可能な状態にすることで本の里プロジェクトの拠点となる施設をつくった。
2. に関しては、主要な図書室となる4つの部屋に、全て違った寄贈本の楽しみ方ができるような提案を行った。
3. に関しては閉鎖的であった部屋の窓や扉を外し、視線の通る開放的な図書室とすることや、外部空間にテラスを設けて、外からも回遊可能とすることで適えている。
4. は、表紙本棚にみられる、見て楽しい本の陳列方法の工夫を行ったり、会話を楽しめる場所やのんびりと横になれるといった場所、迷路のような歩いて楽しい空間、ちょっとした展示を行えるイベント空間を設けることで本を読んでなくても楽しめる。くつろげる空間づくりを行った。